

2.21

## 脱炭素をテーマにした展示型フェアを初開催

### KOBE脱炭素フェア2024



次世代産業委員会は、中小企業を含めた地域全体の脱炭素・GXを後押しするため、関連ソリューションやカーボンニュートラル製品を提供する企業、また企業を支援する団体が出展する展示会と講演会で構成するフェアを開催した。

基調講演には、(一社)ソーシャルプロダクツ普及推進協会事務局長の深井賢一氏が登壇。同協会は、環境配慮商品において一般的な評価指標である“社会性”に加え、ビジネスとしての持続可能性を指す“商品性”の両面で評価する、日本初の表彰制度「ソーシャルプロダクツ・アワード」を運営している。

深井氏は「自社商品の環境価値に気づいていない企業は多い。自社で再発見し、それを正しく伝え、コストに転嫁する姿勢が必要」と強調。大企業より身軽に商品の展開が可能な地場の中小企業にこそチャンスがあると力説した。

また、脱炭素の取り組みは、企業イメージの向上にも大きく寄与するとして、県内企業の事例を紹介。SDGsの取り組みによって求人への学生の応募が急増した事例や、商品の包装で部分的な脱プラスチックに取り組み、顧客拡大に成功した事例などに、参加者は熱心に聞き入った。

最後に深井氏は「重要なのは社外発信と社内教育の両輪。企業としてのパーパスを明確にしないと取り組みは持続しない」と参加企業に対し積極的な社内改革を呼びかけた。

講演後は、経済産業省をはじめとした各支援機関が各種補助金制度を紹介し、脱炭素への取り組みを促した。

展示会には12企業・団体が出展。カーボンオフセット商品や太陽光・水素関連技術の紹介など、各社が脱炭素の取り組みをPRした。また、支援機関など5企業・団体も出展し、脱炭素に取り組む際のアドバイスなどを行った。

#### 出展企業

- 企業 (株)アシックス
- アスエネ(株)
- 川崎重工業(株)
- (株)神戸酒心館
- (株)神戸製鋼所
- JGC Digital(株) [(株)神戸デジタル・ラボ]
- スパイスキューブ(株)
- (一社)ソーシャルプロダクツ普及推進協会 (APSP)
- (一社)サステイナブル・レストラン協会
- (株)ノーリツ
- (株)三井住友銀行
- (株)MORESCO

#### 支援機関

- 環境省 近畿地方環境事務所
- 経済産業省 近畿経済産業局
- (公財)神戸市産業振興財団
- (独)中小企業基盤整備機構 近畿本部
- (株)みのりアソシエイツ



産業部産業振興チーム

2.14

## 新たな海外ビジネス展開に向け 国際商取引や英文契約書の基礎を習得

### 3時間で学ぶ英文契約と交渉セミナー入門



国際ビジネス委員会は、(一社)日本商事仲裁協会神戸事務所と共催で、招和法律事務所弁護士の岡井加女代氏、ラール法律事務所弁護士の浦田知温氏を講師に迎え、セミナーを開催した。

はじめに、岡井氏が国際商取引のリスクや英文契約の特徴などを概略を解説。その後、浦田氏より売買・販売店契約などで押さえるべきポイントについて詳しく説明した。

2月28日には個別相談会も開催。中堅メーカーの相談に対しては、岡井氏より既存の中国企業との独占販売契約書における将来リスクを指摘し、改善策をアドバイスした。

産業部国際チーム

2.22

## 元公安捜査官に学ぶ ビジネス交渉術

### 中小企業Web研修事業 特別講演会



中小企業Web研修事業の特別企画として、(一社)日本カウインターインテリジェンス協会の稲村悠氏を講師に迎え、講演会「元公安捜査官が教える信頼関係を築くビジネス交渉術」を開催した。

稲村氏は、国内で起きている諜報活動や社内調査の事例に基づき、効果的なコミュニケーション手法を解説。交渉を成功に導く秘訣について、「信頼関係を築くことが本音を引き出す最大の手段。交渉相手を深く知り、寄り添うことで望む結果が得られる」と強調した。

会員事業部事業推進チーム

2.15

## 従業員の定着率が高い会社へ

### 中小企業のための賃金見直し5つのポイント



賃金の見直しで社員のモチベーション向上を図る手法を学ぶため、社会保険労務士法人キラリスの砂山真氏を講師に迎え、セミナーを開催した。

砂山氏は賃金バランスの重要性を説き、「世間相場に負けない給与を支払うことにより、社員のやる気を引き出して業績アップに繋げてほしい」と強調した。

参加者からは、「実績値や相場を用いた解説により、自社の業界での立ち位置が理解できた。賃金テーブルを検討する際のヒントにしたい」との声が聞かれた。

会員事業部事業推進チーム

2.22

## 食関連スタートアップとの 協業を目指す

### フードテックスタートアップとの交流会



スタートアップ支援と企業のイノベーション創出の一環として、食に関する事業を展開するスタートアップと、地元食品関連企業との交流会を開催した。

シルク原料の食用用途開発やこんにゃく由来の食品開発、飲食店を支援するアプリの開発など、ユニークな事業に取り組むスタートアップ6社が登場。自社のサービスを紹介し、参加者に向けて協業やサービスの利活用を訴えた。

プレゼンテーション後には、スタートアップが参加者のグループを回り、活発な交流が行われた。

産業部産業振興チーム